福生市立福生第三中学校

平成 30 年度　1　学年　英語　科　授業改善推進プラン

児童・生徒の【実　態】		・音読・歌の際にはよく声を出す。 ・授業中、私語をしてしまう生徒や、集中力がない生徒が多い。 ・スプリングスクールでの国語のテストでは、説明文を解く内容で目標値より低い結果であった。 ・スプリングスクールで国語・数学の平均点が昨年度より、それぞれ下回った。 ・中間考査、期末考査点数において上位層と下位層の２極化が見られる。 ・期末考査の知識理解（単語等）の項目に於いて３０点満点中、平均点数が１８．８であった。 ・期末考査の表現（作文・重要構文）の項目において３２点満点中、平均点数が１５．６であった。 ・夏休み明け単語テスト（１００問）においての平均点が５６点であった。
【課　題】		・説明文等の長文を読む力が低い。 ・授業や普段の生活において、人の話をしっかりと聞く習慣が無い生徒が多い。 ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。 ・上位層と下位層で二極化している。
【授業改善策】	具体的な【改善策】	・家庭学習の習慣を身に付けさせるため、宿題を毎回出す。 ・日々達成感を味わえるように英単語ビンゴを使用する。 ・授業で説明・アクティビティー後、問題演習を入れる。 ・定期考査前の補習を実施する。 ・英文を書かせることを徹底させる。
	実践する【単　元】	単元名：　Lesson5　Our New Friend 指導時間：　９　時間　　指導時期：　９～１０　月頃
	重点的に育成すべき【資質・能力】	・具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力を育てる。 ・聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力を育てる。
	単元における【具体策】	・疑問詞を導入し、地域について where・who・when を使いアクティブラーニングをし、得た情報を書きとらせる。 ・代名詞を導入する際に、主格、所有格、目的格について表にして暗記させ、口頭で使えるようにアクティブラーニング実施、及び文の作成をさせる。 ・ビンゴにおいて上記の疑問詞、代名詞を扱い、さらにそれらを使った文を口頭で言わせる。 ・ワークブック・復習プリントの宿題を出す。

福生市立福生第三中学校

平成 30 年度　2　学年　英語　科　授業改善推進プラン

児童・生徒の【実　態】		【普段の授業での様子】 ○英語を使った発表活動には積極的に取り組んでいる生徒が多い。 ○発問した際には、活発に反応し、回答する生徒が多い。 △単語を覚えることが苦手な生徒が多い。 △毎週提出物の課題を与えているが、毎週欠かさず提出物を出すことができていない生徒が多い。 △説明をしている際に、私語をしてしまう生徒がいる。 【学力向上を図るための調査の結果】 ○教科の内容において、思考・判断・表現（外国語表現）については、都の正答率を上回った。 ○読み解く力に関する内容において、解決する力については、都の正答率を上回った。 △教科の内容において、知識・理解については、都の正答率を下回り、知識の定着に課題がある。 △読み解く力に関する内容において、読み取る力については都の正答率を下回り、英語で書かれた情報を正確に読み取る力に課題がある。
【課　題】		・家庭学習の習慣を身に付けること。 ・基礎的、基本的な知識・技能を身に付けること。 ・長文を正確に読み取り、内容を理解すること。
【授業改善策】	具体的な【改善策】	・既習事項を含んだ課題を適宜与え、生徒の知識・理解の定着を図る。 ・既習事項を含んだ活動を毎授業繰り返し行い、生徒の知識・理解の定着を図る。 ・課題解決型の言語活動を実施する。 ・生徒の実態に合わせた段階的な指導を行う。 ・英語の文章を読み、内容を整理し、要約できる力を養う。
	実践する【単　元】	単元名：　Lesson 7　Presentation 指導時間：　11　時間　　指導時期：　12　月頃
	重点的に育成すべき【資質・能力】	・形容詞・副詞の比較級・最上級を理解し、使うことができるようにする。 ・通信手段についての説明文を読むことができるようにする。 ・プレゼンテーションの原稿を読んで、そこに書かれている事実を読み取り、内容を整理することができるようにする。
	単元における【具体策】	・基礎的、基本的な知識・技能を習得させるために、新出単語を学んだ次の授業では、必ず小テストを行い、繰り返し学習することで知識・技能の定着を図る。 ・説明文を読む際には、ただ内容を読み取らせるだけではなく、その内容を整理し、その内容について自分はどう思うか考えさせる機会を設ける。 ・比較級・最上級を用いた活動を毎授業繰り返し行い、知識・技能の定着を図る。 ・プレゼンテーションの原稿を読んで、そこに書かれている事実を読み取り、内容を整理し、他者にその内容について伝え合う活動を行う。

福生市立福生第三中学校

平成 30 年度　3　学年　英語　科　授業改善推進プラン

児童・生徒の【実　態】		・定期考査では【外国語表現の能力】【外国語理解の能力】【言語や文化についての知識・理解】の３観点で得点をつけており、正答率の結果は以下の通りである。 １学期中間考査：【外国語表現の能力】63.3% 【外国語理解の能力】60.9% 【言語や文化についての知識・理解】50.3% １学期期末考査：【外国語表現の能力】58.8% 【外国語理解の能力】55.9% 【言語や文化についての知識・理解】47.7% 上記の結果を比較すると、特に【言語や文化についての知識・理解】の正答率が低い。 ・第１回実力完成シート（復習確認テスト）の結果は学年総合偏差値が５０であったが、【英作文】と【物語文の理解】が正答率 30%未満という低い結果が出ている。
【課　題】		・単語や文法などの基礎知識が不足している。 ・英作文問題が不得意である。 ・物語文の理解が不得意である。
【授業改善策】	具体的な【改善策】	・授業内で単語や文法などの基礎知識を学ぶ機会を増やす。 ・英問英答などの英作文問題演習を授業内で行う。 ・初見の、物語文などの長文読解を授業に取り入れる。
	実践する【単　元】	単元名：Lesson 6　I Have a Dream　（尊敬する人紹介スピーチ含む） 指導時間：11 時間　　指導時期：10 月頃
	重点的に育成すべき【資質・能力】	・尊敬する人物について紹介するスピーチを書く。 ・黒人差別とキング牧師についての英文を読み、内容を理解する。 ・後置修飾（文法）を理解し、その用法を使用した文が書ける。
	単元における【具体策】	・スピーチ作成の前に応用のきく表現を練習する時間を取り入れ、今回のスピーチ以外の英作文にも利用できる表現を身に付けられるように工夫する。また、教員が手を入れていない状態で一度スピーチを採点し、課題を明確にした上で生徒自身に書き直させ、英作文力の向上を図る。 ・教科書本文の理解だけでなく、同じ話題の別の長文を読むことで、初見の長文を読む機会をつくり、また定期考査にも同様の形式の初見の長文問題を出題し、その結果を確認して次の単元に繋げる。 ・単元で使用する単語を含むビンゴや、絵を見て人物やものを後置修飾を使って英文に表現する活動を取り入れ、単語テストや文法問題演習を実施することで理解度を確認する機会を設ける。